

自動火山灰採取システムによる桜島火山の岩石学的噴火活動モニタリング

Petrological monitoring of eruption at Sakurajima volcano by automatic sampling system from Feb 2008

嶋野 岳人 [1]; 井口 正人 [2]; 横尾 亮彦 [3]

Taketo Shimano[1]; Masato Iguchi[2]; Akihiko Yokoo[3]

[1] 富士常葉大・環境防災; [2] 京大・防災研; [3] 京大・防災研・桜島火山観測所

[1] Fuji-Tokoha Univ.; [2] SVO; [3] SVRC, DPRI, Kyoto Univ.

現在、我が国の活動的火山における多くの活動は、火山灰を放出する活動である。これらの火山灰の噴出量は、長期的に見れば比較的大規模な噴火に匹敵するものであるといわれている。火山灰噴火は大規模噴火に比べればはるかに身近な噴火であるが、その噴火様式の決定要因や噴火推移の要因についてはまだ分かっていない点が多い。特に噴火推移の要因理解のためには、噴火活動を時系列で観測することが必要である。これまで、地球物理学的観測やガス観測などの手法が確立され、火山活動の予測に威力を発揮しているが、マグマそのものの状態、すなわち噴出物から直接噴出マグマに関する時系列データを取得する方法はまだ確立されていない。本研究では自動火山灰採取システムを構築し、桜島火山において噴出物の時系列観測を行った結果について報告する。